



ルーテル学院だより

NO.140
2019.9.1

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611 FAX:0422-33-6405

発行人 市川 一宏

実習報告

精神保健福祉士実習

「その人らしさ」を大切に 想いを理解すること

子ども支援コース4年 小澤 満喜

私は、精神保健福祉士の受験資格取得のため、精神科病院で12日間、地域活動支援センター・相談支援事業・就労継続支援事業B型・就労移行支援事業等の事業を展開している特定非常利活動法人にて8日間の実習を行いました。

精神科病院の実習では、患者や利用者に関わり、またスーパージョンを受ける中で、精神保健福祉士の専門性

社会福祉士実習（高齢分野）

実習でわかった

「寄り添い」ことの意味

福祉相談援助コース3年 高麗 有加里

私は、「社会福祉法人多摩同胞会あさひ苑」の中の地域包括支援センターと特別養護老人ホーム、高齢者住宅サービスセンターで「一人暮らしの高齢者への援助」をテーマに、25日間の実習を行いました。その中で、17日間地域包括支援センターで毎回違う職員の方に付き一人暮らしの利用者の方のご自宅へ同行させていただき、実際に、金銭管理問題や介護予防等のケアプランのモニタリング等を見ることができました。一人暮らしの利用者の生活状況を知らないと考えていたため、

の中核について考えさせられ、学びました。病棟やデイケアで、患者や利用者として接し関わる中で、様々な経験や想いを持ってもらえることを知り、その方のこれまで送られてきた生活スタイルや習慣、大事にされてきたことと

いった「その人らしさ」を大切に、関わっていく事が精神保健福祉士の専門性において重要なだと学びました。特定非常利活動法人の実習では、事業所ごとの特性や、通所されている方の想いを理解することを中心に実習を行いました。特に印象的だった出来事として、地域活動支援センターでの実習の際に利用者のご自宅への訪問がありました。訪問では、職員の方と一緒に部屋の清掃を行い、その中で、捨てて良い物や大事にされている物を利用者に確認し、利用者の選択を大事にする

一人ひとり、ニーズの違った利用者への援助の仕方を見ることができたのは大きな学びとなりました。職員の方から利用者について説明を受けてから訪問していましたが、実際に会話をすることで、その方の人柄や、ご自宅の様子等から事前に聞いていた情報から考えていたイメージと違った所があり、資料や情報のみで理解することは難しいと改めて学ぶことができました。訪問しても玄関に入れてもらえず顔の見えない状態での関わり合いもあると聞き、その方について理解することができるとなるには時間が必要だと思

いました。今回の実習では、一人の利用者と25日間の実習を通して関わることで、職員の方に付きその利用者の生活

る姿勢を学びました。

また、私は各事業所で落ち着いた雰囲気であることを感じ、そのことから地域の事業所は利用者「居場所」としての機能があるのではないかと考えました。そして、地域で自分の体験や大変さなどを共有でき安心できる場所があるからこそ、次のステップへチャレンジする足掛かりとなるのではないかと考えました。

今回の実習では、本当に沢山のことを学び、同時に利用者や患者の想いに触れることができました。この実習で得た学びを通して、精神保健福祉士の資格取得を目指し一層勉学に励みたいと思います。

状態が改善されていく様子を観察することができました。この関わり合いの中で、私自身悩んでいた利用者へ「寄り添い」ことの意味を理解することができました。お互いが何も知らない状態から利用者の話を聞き、今何が一番必要なかを多くの情報から取捨選択し、その方らしい生活を送ることができるようになることが最も重要なのだということを学びました。

実習で学んだことを活かし、将来社会福祉士として、利用者やそのご家族を援助する中で「その人らしさ」を大切にしていきたいです。

心理実習について

実習担当教員

石川与志也・高城絵里子

ルーテル学院大学では、公認心理師の国家資格化に伴い、2018年度より公認心理師資格に対応したカリキュラムが始まりました。そして、10年以上に渡って行ってきた独自の実習教育も2019年度後期より公認心理師資格に対応した形にリニューアルします。

公認心理師資格を取得するためには、学部レベルでは80時間以上、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野の5分野の実習が求められています。当面は、保健医療分野を含めれば5分野そろわなくてもよいとされており、本学では様々なネットワークを活かし、最初から5分野の実習先を確保することができました。

「心理実習Ⅰ」では、1グループ15人までの演習形式の授業で、それぞれの実習先に関する理解を深め、公認心理師としての職責や連携について学びます。また、クラス内のグループディスカッションや自己理解のワーク等を通して心理面での準備も整えていきます。さらに、大学院附属臨床心理相談センターの見学を行い、現場での体験と観察に基づく学びを始め、「心理実習Ⅱ」での学外施設における見学実習への準備を進めます。「心理実習Ⅱ」では、5分野に関する施設での見学実習を行います。平行して授業内で見学実習の体験をグループで振り返り、教員と共に理解を深めます。事前学習、現場での実習と指導、毎回の実習記録の作成、授業での振り返りと指導、実習記録の添削という多層的な学びのシステムの中で、学生は実習体験を多角的に振り返り、その理解を深めることができます。現場での体験を通して対象と自己の理解を深める臨床心理実習を行ってきた実績を活かし、独自のきめ細やかな実習教育を行えることは本学の強みです。

2019年度保護者会が 開催されました。

学生支援センター長 村上 秀紀

毎年、新入生が大学に慣れた6月下旬に保護者会を開催しています。今年は29日(土)に93名の保護者に参加いただきました。午前中の全体会では3名の卒業生、川島創士さん・宮島潤さん・石間優仁香さんより在学中の勉強、学生生活、サークル活動、卒業後の活躍について、それぞれの持ち味が表れたスピーチをいただきました。保護者からも多くの質疑が寄せられ有意義な時間を持つことができました。

その後は、各コースに分かれて教員も同席しての昼食会、引き続きコース説明会があり、教育内容や進路の動向等、現況報告がありました。希望者には個別相談の時間が設けられ、学生たちの日々の様子を率直に情報共有しました。また、保護者同士の情報共有の場もなりました。



教育の一層の充実を図るいい機会をいただきました。

オープンキャンパスのご案内

予約不要

9月28日(土)

「まだ間に合う! AO入試・推薦入試対策講座」

- 12:30 受付開始
- 13:00 大学紹介
- 13:20 まだ間に合う! 入試対策講座
- 14:00 模擬講義①「相談援助って何するの?」
- 15:00 模擬講義②「心理学ってどんな学問?」

16:00 学生寮見学(希望者のみ)
またはキャンパスツアー(希望者のみ)

・キャンパスツアー、個別相談、在学生相談は随時実施します。

11月3日(日) 保護者対象 *学園祭開催

12月14日(土) クリスマスコンサート

<オープンキャンパスについてのお問い合わせ先>

TEL 0422-32-2949 (企画広報センター)
メール koho@luther.ac.jp

110周年記念大会 三鷹移転50周年

- ・日程: 11月30日(土)
 - ・テーマ: 「共に生きる社会を目指す『浦河べつるの家』の実践を通して」
 - ・講演者: 向谷地 生良氏
- *詳細はホームページなどでご案内いたします。

行事予定 9月~12月

- 9月7日(土) AO入試I期面談日
- 9月10日(火)~13日(金) 集中講義期間
- 9月16日(月) 後期授業開始
- 9月23日(月) 一日神学校
- 9月25日(水) 前期卒業式
- 9月27日(金) 創立記念礼拝
- 9月28日(土) 大学院オープンセミナー(社会福祉学専攻、臨床心理学専攻)
- 10月4日(金) 創立記念休日
- 10月19日(土) 10月期大学院入試(臨床心理学専攻修士課程)
- 10月26日(土) AO入試II期面談日
- 11月3日(日)~4日(月) 愛祭(学園祭)
- 11月23日(土) 公募制推薦・社会人I期入試
- 12月7日(土) 自己推薦・教会枠入試(推薦)
- 12月11日(水) クリスマス礼拝
- 12月14日(土) オープンセミナー(社会福祉学専攻、臨床心理学専攻)

夏の高校生のための体験講座

助教 松田 崇志



7月24日と25日の2日間にわたり、47名の高校生を迎え「高校生のための体験講座」が開催されました。参加者は興味に応じて「福祉相談援助・地域福祉開発コース」「臨床心理コース」「子ども支援コース」「キリスト教人間学コース」に分かれ、それぞれのコースで準備されたプログラムに参加しました。各コースの2日間のさまざまな講義や体験学習を通して、同じ興味を持つ参加者同士で学びを深めることができました。また、礼拝体験や在学生とのランチ交流では、礼拝や授業、サークル、アルバイトのことなど、本学での大学生活について知っていたり、機会となりました。最初は緊張していた参加者も、徐々に打ち解けることができ、最後には笑顔で体験講座を終えることができました。

私が担当した「臨床心理コース」の体験学習（心理学の実験を体験してみよう）では、実験により、心の働きを捉えるという心理学の一つの方法を体験してもらうために、パーソナルスペースの測定という心理学実験を参加者とともに行いました。パーソナルスペースとは自身の周囲にある個人的な領域のことですが、直接目で見ることができません。そのようなパーソナルスペースを実験により測定し、数値として目に見える形にし、自身のパーソナルスペースの大きさを知ってもらいました。この体験学習を通して、心理学の科学としての側面を学びました。

夏まつり 報告

臨床心理コース3年 黒川 千夏

今年の夏祭りのテーマは「踊れ！ 楽しめ！ ルーテル真夏の清涼祭」でした。学生会執行部と礼拝委員会の合同で開催されました。

開会礼拝では、楽器の演奏にあわせて皆で歌い踊る「ひとつになろう」等、大盛り上がりでした。礼拝終了後は、3団体のサークルの演武や演奏、流し素麺やラムネ、チョコバナナなどの食品出店に多くの学生や職員の方々が立ち寄りくださいました。午後からは、礼拝のほか軽音サークルの



テージと花火が行われ、第一部に負けない盛り上がりでした。今年梅雨が長引き雨が降ることが心配されましたが、無事に晴れて大きなアクシデントもなく終われたことに安堵しています。来てくださった皆様、ご協力頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。様々な反省を踏まえ次回もよりよいものにしていきますのでご期待ください。有難うございました。

9月16日(月・祝) 秋の高校生のための体験講座

対象 高校生
開催時間 10:00~(受付 9:30~)
会場 本学トリニティホール
参加費 無料(ランチ付き)

人を支援するしごとで大切なこと

福祉、心理、キリスト教のそれぞれ視点から、「人を支援するしごとで大切なこと」をテーマに、同じ関心を持っている高校生の皆さんとともに体験しながら、考え、学んでみましょう。

スケジュール

10:00 オリエンテーション・アイスブレイク
10:15 「人を支援する」ってどういうこと？
「人を支援する」仕事に興味を持った皆さん、グループワークを通して「人を支援する」とは何かについて一緒に考えてみましょう。
11:45 礼拝体験(希望者のみ)・ランチタイム

13:30 ルーターと一緒に考えてみよう
～人と人との広がり・深まり～
ルーテル学院の名称は、ルター(16世紀の宗教改革者)に由来します。しかしルターは、ただ宗教の人ではありません。人と人のお互いの関係を広く深く考えた人です。一緒に考え学んでみましょう。
14:30 ティータイム(一日の振り返り)



詳細はホームページ、スマホサイトでご確認ください。

お申込み・お問い合わせ先 ルーテル学院大学企画広報センター 0422-32-2949 koho@luther.ac.jp

2020年度 年内の入試日程

試験方法	エントリー期間	課題提出期間	面談日	出願許可発送	出願期間	合格発表
AO入試	II期 4/29(月)～10/15(火)	10/1(火)～10/21(月)	10/26(土)	10/31(木)	11/1(金)～11/15(金)	11/22(金)

※ AO入試説明 3/30(土)～9/28(土) ※ AO入試説明は受験生本人が受けること。

試験方法	出願期間	試験日	合格発表
公募制推薦入試/指定校推薦入試/社会人入試I期/編入学試験I期/留学生試験I期	11月1日(金)～11月15日(金)	11月23日(土)	11月29日(金)
自己推薦入試/教会枠入試(推薦)	11月18日(月)～12月2日(月)	12月7日(土)	12月13日(金)

(入試に関するお問い合わせ)

入試事務局 電話: 0422-31-4611 ファックス: 0422-33-6405 メール: admission@luther.ac.jp

卒業生インタビュー

被災地支援の最前線に立って

一般社団法人OPEN JAPAN理事
災害救助NGO
ヒューマンシールド神戸代表

吉村 誠司さん

吉村さんは災害が起こると国内外に関わらず、すぐに現地に行き必要を救助・支援を行っています。そのような活動をするようになったきっかけは何ですか。

僕にとっての災害救助活動の原点は、阪神・淡路大震災です。発生から4日目に、ある避難所に行ったんだけど、そこで「あんた話を聞いてくれるかい」とおぼあちゃんに声をかけられた。誰かに話さない気がおかしくなりそうになるから、と言われたときに、現地にきて話を聞くだけでも必要だなと思っただけで、もともと早く現地に入らないといけないな、と後悔もした。それ以来、とにかくすぐに現地に行き、そこで必要とされている救助・支援は何かを見て考えて活動するようになりました。

被災地の最前線だけでなく、被災した子どもたちの支援もされていますね。

阪神・淡路大震災の後から、子どもたちと富士登山や、カヌーキャンプなどを行ってきました。暗闇の中、富士山頂まで登った子から「夜に灯りをつけなくても眠れるようになった」と報告があったり、東日本大震災にあった宮城県石巻市の子どもたちを長野、山梨に招待した時には、野尻湖に飛び込む企画に参加した子から「飛び込めて楽しかった」と言われました。大きな災害にあった後に怖かったことを克服する姿、小さな



熊本地震での被災地支援

な一歩を踏み出す姿を見てきました。ボランティアは被災した現地でなくても、できることがたくさんある。小さな一言からでも、人助けはできるんです。「微力だけど、無力じゃない」。そういう気持ちが大切だと思います。

ルーテル学院大学を選んだ理由は、何ですか。

僕が入学した頃、ルーテルは1学年40数人という本場に小規模の大学だったんだけど、この少人数制がすごくいいなと思って受験しました。社会福祉を学びたいと思っていましたし、マンモス大学だとのまれちゃう気がしたし。

大学生生活で印象に残っていることは何ですか。

学生のうちに世界を見ておこうと思って、1年間休学をしてデンマーク、エジプト、イスラエル、インドなど18カ国を自転車等で巡ってきました。トランプ大統領の旅でした。インドでは荷物全部なくしちゃったんだけど、そのときに現地の人たちの優しさとか、インドには「徳を積む」という考え方があって、その考えに触れることができた。その時、僕が目指していた旅はこれだったんだと思いました。

大学生生活で培ったものが、今でも活かされていることはありますか。

ルーテルの良さは、横のつながりだけでなく、在学当時は「礼拝グループ」という仕組みがあって、縦のつながりも強かったことが特に印象に残っています。教員も神学生も学部生も一緒に社会問題などを「あれはおかしいよね」とか、ずっと語れる環境でした。本当にみんなの距離が近かった。いろいろな特徴を持った先生がいて、学生一人ひと

りを先生たちが知っていていてくれる。その出会いはとても大きかったですね。今でも災害支援の現場で、卒業生の人たちや牧師さんたちと連絡を取り合っていて、支えあっています。それぞれの場所ががんばっている人たちとつながっていますよ。

最後に在校生、そして未来の入学にメッセージをいただけますか。

僕が少人数にこだわったのは、一人ひとりを大切にしてくれる感じがあったから。大学にいるときは誰かと話をしなくちゃいけないような規模がちょうど良かった。

ルーテルには無限の可能性があると、思います。人間ささきこにはある。たくさんの中に埋もれるのではなくて、困っていたら頼れる人たちがいる。相談できる人たちがいる。そのままでもいいんです。自分を探しにきたらいいと思います。



クヌーテン講演会にて

吉村 誠司(よしむらせいじ)



1990年度ルーテル神学大学(現ルーテル学院大学)卒業。在学中にワークキャンプ・交流国際NGOを発足。1年間休学して18カ国を自転車等での一人旅をする。

1995年の阪神・淡路大震災の支援活動に始まり、イラク、インドネシア、パキスタン、中国などでの災害時にも出動。東日本大震災では、当日に福島県、翌日には宮城県石巻市、気仙沼、陸前高田などで初動活動を行った。現在も災害救助の第一線で活動している。OPEN JAPAN理事、災害救助NGOヒューマンシールド神戸代表。